

宮城いきいき便り

活動で広がる「絆の和」

寄稿 宮城いきいき学園登米・栗原校絆十期会

末永きぬえさん



スコップ三味線 ザ・シャベローズ

絆十期会（氏家寛会長）は、東日本大震災が起きた年に宮城いきいき学園登米・栗原校に入学し2年間学んだ36人の仲間の会です。学園卒業後も絆を強めながら、介護施設訪問や清掃活動など各種ボランティア活動に取り組んでいます。

一つは、スコップ三味線「ザ・シャベローズ」の19人。そろいのユニフォーム姿で演奏する姿に観客は圧倒され、ただもう「びっくり」。自分たちも楽しみ、ほかの人たちにも楽しんでもらっています。

もう一つは、日本舞踊に取り組む14人の女性の会「絆十期踊りの会」。初めての施設訪問ボランティアでは緊張のせいか笑顔も少なく、高鳴る胸を抑えて踊りを披露しました。

学園を卒業し2年が経過。同じ目的に向かって活動して得た一番の成果は、やはり「会員同士の絆の和」。今後もボランティア活動を通じて「絆の和」を大切に、地域社会発展のため日々進めています。



絆十期踊りの会

それでも施設の皆さんから惜しめない拍手を頂き「来てよかったね」「次回からは笑顔だよ」とメンバー同士で話したのが思い出です。絆十期会には二つのグループ以外にも、いくつかの小グループがあります。施設訪問ボランティアなどはザ・シャベローズや踊りの

「充実した2年間に」

宮城いきいき学園入学式

県内に仙南、大崎、石巻、気仙沼、本吉、登米、高年齢者の生きがいと健康づくりを支援する「宮城いきいき学園」の合同入学式が4月、宮城県庁講堂で開かれた。

本年度は約420人が出席した入学式



同学園は、おおむね60歳以上であれば入学できる。在学期間は2年で、人生を豊かにする教養はもちろん、地域貢献についても幅広く学べる。入学式には在校生も含め、約420人が出席した。

初めに、学園長である県社会福祉協議会の鈴木隆一会長が「向学心に燃え、今後の人生を楽しみつつ地域貢献活動に意欲的に取り組もうとする新入生の皆

さんには、新たな自分の発見と仲間との良き出会いの中で過ごす2年間が、生涯の充実した1ページになることを願ってやまない。楽しく、元気に活動していただきたい」と式辞を述べた。

来賓を代表し、三浦入学生代表で石巻校



入学生代表の言葉を述べる石巻校の山田金治さん（左）

の山田金治さん（石巻市）が「旺盛な好奇心こそ長生きの秘訣（ひけつ）と受け止め、いろいろなこと挑戦したい」と抱負を語った。

本年度の新入生の最年長は石巻校の尾形昭子さん（85）。東日本大震災の被災地支援の仕事に携わる夫とともに兵庫県からやって来た宮里千嘉子さん（登米市）は登米・栗原校に入学した。夫婦そろっての入学も4組あった。

入学式の後には、東北放送ラジオ局長の藤沢智子さんが「残しておきたいおらほの言葉」と題し記念講演。この日を皮切りに、各校ではそれぞれ本年度の学習が始まった。